

「第1回 あおもりの農山村フォトコンテスト」 入賞作品一覧

テーマ「農村の風景と暮らし」

各 賞	題 名	氏 名
最優秀賞	朝日をあびて（田子町）	清水目 章司
優 秀 賞	アシガヤ刈り（中泊町若宮）	竹内 恭一
〃	若き日々（十和田市高清水～三本木農業高校）	岡部 哲
入 賞	朝もやの里（八戸市南郷）	市川 清一
〃	農家の裏庭（西目屋村）	三戸 俊彦
〃	収穫の喜び（弘前市）	山下 茂
〃	農作業を見つめて（弘前市三和）	山上 義明
〃	冬支度（青森市）	本間 弘樹
〃	旧暦八月朔日の朝（弘前市）	町田 芳文
〃	小川の流れる林檎園（弘前市）	三上 則昭
〃	津軽平野をSL 走る（藤崎町 JR 常盤駅付近）	附田 日出行
〃	厳寒の水垢離（弘前市鬼沢）	西巻 敏美
〃	「こんなたくさんのおりんご、ボクひとりでたべきれかな？」（黒石市）	八木澤 陶史
特 別 賞	勇者の歩み（五所川原市梅田）	峠谷 知樹

最優秀賞 朝日をあびて（田子町）／ 清水目 章司



【講評】農村に夜明けが訪れ、朝日を浴びて赤く染まっています。刈り取りの終わった水田、天日干しの稲束、水車のあるかやぶき小屋と、魅力的な素材が並び、奥行きのある作品に仕上がっています。木々は色づき始め、季節は少しずつ冬へ向かっていきます。1日の始まりに、ゆったりとした時の流れを感じさせてくれる作品です。

優秀賞 アシガヤ刈り（中泊町若宮）／ 竹内 恭一



【講評】岩木川下流の広い河川敷で繰り広げられるアシガヤの刈り取りです。高い位置から撮影したことでアシガヤ畑のスケールが分かり、人の背丈と比べるとアシガヤの大きさを理解できます。河川敷に夕日が差し込み、朝から続いた作業もようやく終了です。

優秀賞 若き日々（十和田市高清水～三本木農業高校）／ 岡部 哲



【講評】 三本木農業高校で続く伝統の全校田植えを大胆に切り取りました。生徒が横一列に並び、一心不乱に苗を植える姿は壮観です。若いエネルギーの活躍は未来へつながります。この後、泥まみれの旗取りレース「マッドフラッグ大会」が繰り広げられるのですが、既に静かな戦いが始まっているようです。

入賞 朝もやの里（八戸市南郷）／ 市川 清一



【講評】 朝もやに浮かぶ八戸市南郷地区。平家の落人伝説に彩られた歴史を感じさせる1枚です。

入賞 農家の裏庭（西目屋村）／ 三戸 俊彦



【講評】 咲き誇る春の花々と真っ赤な鳥居、奥には残雪の岩木山が控えていない日常の1コマですが、農家の息づかいが聞こえてきます。

入賞 収穫の喜び（弘前市）／ 山下 茂



【講評】 雪のリンゴ園での収穫も終盤でしょうか。竹かごいっぱいのリンゴを抱え、安堵の表情に今年もリンゴが無事実ったと実感できます。

入賞 農作業を見つめて（弘前市三和）／ 山上 義明



【講評】リンゴ園で暮らす1羽のフクロウ。白いリンゴの花に包まれた姿が何ともユーモラスです。

入賞 冬支度（青森市）／ 本間 弘樹



【講評】ダイコン、紅葉、山の冠雪…里は秋でも、山はもう本格的な冬を迎えています。手前のダイコンがどっしりと存在感があり、季節感があふれた作品です。

入賞 旧暦八月朔日の朝（弘前市）／ 町田 芳文



【講評】朝焼けに染まる空を大胆に取り入れた構図で、青々とした水田との対比が津軽平野のスケールを伝えています。

入賞 小川の流れる林檎園（弘前市）／ 三上 則昭



【講評】残雪の岩木山から流れ出たような小川がリンゴ園を貫き、のどかな春の訪れを告げているようです。

入賞 津軽平野をSL走る（藤崎町 JR 常盤駅付近）／ 附田 日出行



【講評】 こうべを垂れた稲穂と、黒煙を上げる機関車、奥には岩木山がかすんでいます。“役者”がそろい、懐かしい津軽の原風景が広がっています。

入賞 厳寒の水垢離（弘前市鬼沢）／ 西巻 敏美



【講評】 覚悟を決めてタルに飛び込んだ男性と、冷たさに悲鳴を上げる左の男性。表情が対照的で、体格のいい男性はあふれた水の量まで違ってきます。

入賞 「こんなたくさんりんご、ボクひとりでたべきれるかな？」(黒石市) / 八木澤 陶史



【講評】子どもがリンゴに顔をうずめ、甘酸っぱい香りを存分に吸い込んでいます。たぶん初めての収穫体験はどんな記憶に残るのでしょうか。

特別賞 勇者の歩み(五所川原市梅田) / 岫谷 知樹



【講評】五所川原市梅田地区の裸参りで、降りしきる雪をものともせず、福俵を担ぎ、練り歩く男衆。思わず力が入ります。「サイギ、サイギ」という勇壮な掛け声が伝わってくるようです。